# 大崎町

**【大崎町】**品川区域における近代工場の設立時期は、明治 5 年頃で、当時流行の先端をいく**煉瓦工場 (れんがこうじょう)**が、御殿山下で蒸気を利用した新しい機械を使って、操業を始めたとあります。

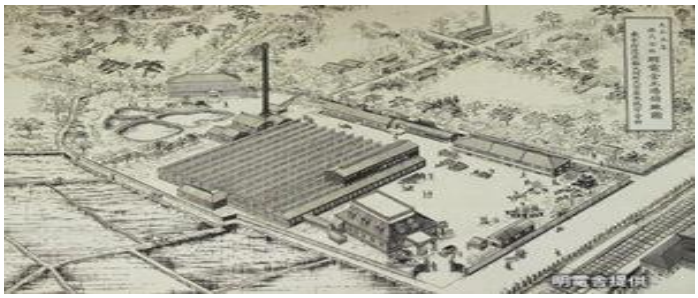
また翌、明治 6 年（1873）、現在の北品川・東海寺大山墓地に近い目黒川べりに**ガラス製造の興業社 (こうぎょうしゃ)（後の官営品川硝子 (がらす)製造所**）が設立されました。

その後大正時代にかけて、目黒川沿いに工場の建設が相次ぎ、**京浜工業地帯発祥の地**となったのです。

**こうしたなかで、特に顕著な変化をみせたのが、大崎町でした。**

**大崎町の人口の増加率は、わずか 10 年間に 2. 7 倍にもなったのですが、これは目黒川沿岸への工場の進出が主な要因で、ことに大正 7 年（1918）以降の工場の創設が目立っています。**

大正 7 年末の調査から大崎町にある工場の約 6 割が大正 5 年以降の創業であったことがわかります。




大正期に大崎町で創業もしくは東京市内から移転してきた主な工場をあげると、大正 2 年の**明電舎 (めいでんしゃ)**（機械工業）、大正 4 年の園池製作所 (そのいけせいさくしょ)（工具）、大正 5 年の高砂工業 (たかさごこうぎょう)（のち高砂鐵工 (たかさごてっこう)）、大正 3 年に操業を開始し、同 6 年に本社を移転してきた

軸受製造の日本精工 (にっぽんせいこう)、そのほか**星製薬（星製薬は明治 44 年創業、大正期に工場を増設）**などがあります。
このほか、**森永製菓**の工場もこのころ建設されました。目黒川に架かる居木橋の上流に**森永橋**がありますが、森永製菓の工場に因んでつけられたものです。
このように急激に発展した大崎町ですが、大正 12,3 年を境にこの地域の都市化も一応完了し、昭和期に入ると人口の停滞傾向がでてきました。工場建設も飽和状態になったのでしょう。

昭和 7 年（1932）、品川区・荏原区誕生の直前に書かれた東京市広報「新東京プロフィル」には、当時の大崎駅周辺の印象を**「品川町から隣の大崎町に入ると、いきなり耳がガァンとなる。街自体が巨大な楽器のように、我鳴り (がなり)たてている。低地の大小無数の工場からわき起こる音響がワァンと空に響く。近代工場の奏 (かな)でる力強いリズムだ。大崎町は工場街だ。・・・・**」と記されています。
**治 44 年創業、大正期に工場を増設）**などがあります。
このほか、**森永製菓**の工場もこのころ建設されました。目黒川に架かる居木橋の上流に**森永橋**がありますが、森永製菓の工場に因んでつけられたものです。
このように急激に発展した大崎町ですが、大正 12,3 年を境にこの地域の都市化も一応完了し、昭和期に入ると人口の停滞傾向がでてきました。工場建設も飽和状態になったのでしょう。

こうした大崎駅周辺の工場街も、今は大崎ニューシティ・ゲートシティ大崎といった再開発ビルとなり、大崎駅を含めてその様相は一変しましたが、現在も再開発は進められ、まだまだ大きく変わろうとしています。【品川区：歴史散歩案内より抜粋）